

会報だより

ニューージーランド旅行記

「ニューージーランドを知る」

退職して 10 年の念願だったニューージーランド (N.) と略する) へ、4 月に行ってきた。Z.N. の広さは日本の 3、4、人口約 450 万人、羊の数は人口の 10 倍の牧草地帯の多い国。

N. を大きく分けると首都のある北島とマウント・トレッキングで有名な南島でなりたっている。

11 世紀頃、マオリ族がポリネシア地域からカヌーで移住してきたので、今もマオリ系と称する人が 15% といわれる。

公用語も英語とマオリ語であるし、地名や習慣、観光源として生きている。

世界航海時代にヨーロッパ各地から西欧人が来航し、不当な土地買い占め、病氣



市民憩いの場

噴水が美しいハグレー公園

蔓延、金鉱発見とゴールドラッシュ、戦争などに苦しめられた後、イギリス連邦自治領になって、ついに 1947 年イギリスから独立した。

しかし今もイギリス連邦に属しているので元首はエリザベス 2 世である。

最近ニュースになったのは国旗変更の国民投票があった。従来の国旗はイギリス連邦の一員であることを表すユニオンジャックと右側に 4 つの星の南十字星を配している。



神秘的な「ミルフォードサウンド」

候補はマオリ族が大事にしていたシダの葉と南十字星のデザインで、シダの葉は今年ラグビー W 杯で優勝したオールブラックスのシンボルマークであるが、投票の結果従来の国旗が継承されることになった。

今まで N. で知っていることと言えば、キーウイ鳥と果物、映画の「ピアニッシモ」に出てきたピアノを下ろすカレカレビーチや「ラストサムライ」の戦場場面、富士山麓に似た北島の草原地帯だったくらいだろうか。

「ニューージーランドを観る」

私達が訪れた 4 月下旬は南半球の N. の秋真っ盛り季節で、気温は日本の晩秋と言った気温、雨の多い N. なのに 8 日間の旅で 1

日だけ霧雨が降った程度で運が良かった。

私達のツアーはシंगाポール経由で南島巡りのみで、

子の中に含まれているのだろう。

その跡地に日本人設計による美しい紙の教会が一時的に建てられている。

素材は特殊な紙、パルプを使われていて、有名な観光地の一つになっているが永久に保存してほしいものだ。

市内にはまだまだ歴史的に貴重な英国風な公園や建物が沢山あるが、一泊目のワナカ湖畔のホテルに向けて、バスは走り出した。

N. とは「地球の箱庭」と呼ばれる程文化と地形と自然が融合した素晴らしい国と宣伝されている通り、旅行を満喫した。

女性のバスドライバーは旅行中 6 日間千八百 Km を越える行程を、難なく運転してくれたのには、感謝の賜物であった。

痛路シンガポールで乗り継ぎ時間 9 時間あったので、

旅行とは新しい知識を得たり、知遇と楽しめたり、ハプニングで心ときめいたり魅力一杯のパンドラの箱である。

「平安神宮参拝」

神苑鑑賞

京都三条高倉にある京都文化博物館にて世界遺産キユー王立植物園所蔵「イングリッシュ・ガーデン」英国に集う花々の展覧会にいきました。鑑賞した感慨を秘めたまま、平安神宮の神苑に咲く花菖蒲を観てきました。

平安神宮神苑は神域をかこんで東西南北と別れている。

春は枝垂れ桜、初夏はカキツバタ、花菖蒲、睡蓮、紫陽花が咲き風情に富み格別の趣があります。

当日は献茶祭や野点も行われていました。修学旅行の学生や外国の旅行者も大勢参拝していました。



睡蓮と飛び石

橋亭を望む東山を借景した広大な風景は絶景中の絶景でした。橋を渡ると結婚式場へと続き、やがて神苑の外へ導かれます。

記：上村 サト子

四季彩

グラジオラス



日本名、トウショウブ(唐菖蒲)またはオランダショウブ(阿蘭陀菖蒲)

古代ローマの剣「グラデイウス」由来し、葉が剣に似ていることからこの名が付いたとされる。

アヤメ科、日本には自生種はなく、明治時代に輸入され、園芸品種として植えられている。原産地はアフリカ・地中海など。赤、黄、橙、白などの色とりどり。球根の秋植え、春植えがあるが夏の初めに赤く咲くグラジオラスが原産地の情熱的な雰囲気を感じる。



記：上村 サト子